

# 柝の木からの手紙

2022年 睦月 1月号



3日： 新月 旧12月1日

5日： 小寒：

17日： 阪神淡路大震災

18日： 満月 旧12月16日(小さいミニマムーン)

20日： 大寒

「柝の木からの手紙」の由来。これは2006年にアメリカのクリントイストウッドが監督し製作した戦争映画「硫黄島からの手紙」より来ている。監督は、硫黄島攻防における日本兵の視点から「硫黄島からの手紙」、アメリカ

人の視点から「父親たちの星条旗」という題名の二本の映画を制作した。

去る11月下旬、STBラジオの夕方の番組「吉川のりおスーパーライブ」で日高晤郎ショーの初期のスタッフであり、更にアンパンマンで有名なやなせたかしさんの元で働いていた「梯(かけはし)久美子」さんを知り「散るぞ悲しき：硫黄島総指揮官・栗林忠道」という書籍に出会った。初版は2005年7月30日。24刷 2006年12月30日。

戦後23年の1968年、硫黄島を含む小笠原諸島が日本へ返還され、更に26年後の1994年2月、天皇が初めて硫黄島の土を踏んだ。その時詠われた句は、

**精根を込め戦ひし人未だ地下に眠りて島は悲しき**

硫黄島総指揮官・栗林忠道は、アメリカ軍が硫黄島に上陸して1ヶ月程の1945年3月17日に大本営に向けて訣別電報を打った。その電報の最後に添えられていた3首の辞世の句のひとつ。

**国の為重きつとめを果し得て 矢弾尽き果て散るぞ悲しき**

それを受け硫黄島玉砕を報じる新聞に掲載された訣別電報は、大本営により多々改変されていた。

**「散るぞ悲しき」 は、「散るぞ口惜し」**

今の世でも改ざんが行われ偽りの情報が実しやかに幅を利かせている。

農業・食の問題でも「化学農薬」に始まり「遺伝子組み換え」「ゲノム編集」へと技術が進みその有効性が海外では否定されている事がある中で、日本では国が積極的に受け入れる姿勢を執っている。ドラッグストアやホームセンター等の特等席で整列している大型容器のあれ。しかも、農産物の残留農薬の基準も緩和方向に大幅に見直されている。都合の良い様に見直されているのです。どこぞかの偉い委員さんたちが通過させてしまっているのでしょうか。健康に良い大豆ミートにしても、安いからとうっかり手を出すと遺伝子組み換え大豆だったりして！その為に健康志向、ベジタリアンを宣伝する。遺伝子組換えは判断できない状況になっているのですよ。

年末に香取慎吾が演じる山本五十六のドラマがありましたが、大きな流れの中で正しい事も伝えられない。表情を読まれてもいけない状況の中で最善を尽くし、結局大戦へと突入して行った。

硫黄島における栗林忠道にしても、アメリカの力を十分に知る中で日本本土への空襲を一日でも遅らせる為に最善を尽くしていた。大本営の言いなりに作戦を行っていたならば数日で陥落していたであろう硫黄島を36日間に及び抵抗を続けた。

一年の始まりの中で、温暖化効果ガスの増加、異常気象が嘘である様な情報も流れています。私たちは、周囲を良く観て移ろいやすい勘ではなく、ゆるぎない直観力を養う必要があります。

# 2021年作物の出荷量

2022年1月号



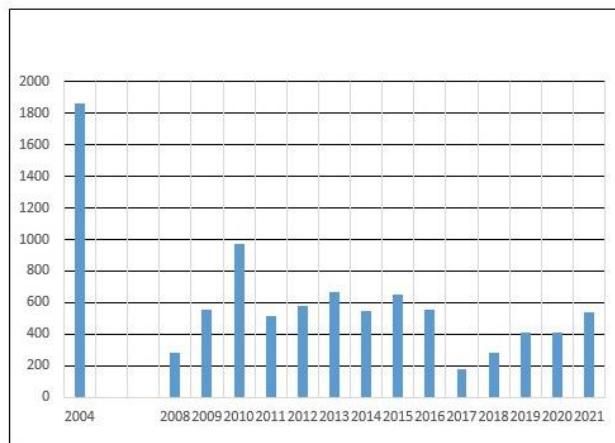
2021年は何と言っても7月の早魃が大きく作物の生育に影響を落としました。芋にとっては、成長するべき時に水が無かったのです。

8月に入って雨が降る様になりましたが、これが芋の2次成長を促しマイナスに影響しました。そんな中でも芋の管理作業を早期培土の方法に変えていた為に土中水分の保持に幾らかでも効果があったのかもしれませんが、また、芋の変形（2次成長を除く）が少なくなりました。

早生の「とうや」、中生の「きたあかり」は出荷量が増え、晩生の「さやあかね」は二次成長が影響して減りました。「ノーザンルビー」は、平年並み。「シャドークィーン」は、早魃が大きく影響しているのでしょうか。半減してしまいました。

自然農法・有機JAS きたあかり芋 反出荷量推移

出荷	年	反出荷量kg
大 コ ン 一 括	2004	1860
	2008	285
	2009	555
	2010	974
個 選 箱 詰	2011	512
	2012	582
	2013	669
	2014	550
	2015	652
	2016	558
	2017	182
	2018	279
	2019	412
	2020	413
2021	537	



有機JASのビーツを5畝作付けしました(一般は9畝)。有機ビーツは、ネット販売で。一般ビーツは、現在近隣スーパー等で販売中。今後のビーツの生産方法・販売方法の検討が必要とされています。

下表のビーツの出荷量は、年が明けてもまだ増えるだけの生産量を有しています。

自然農法・有機JAS 出荷量 推移

ホーツ高橋農場

作成:2022年1月4日

作物名	反当たりの出荷量(kg)											R3 2021年	
	H22 2010年	H23 2011年	H24 2012年	H25 2013年	H26 2014年	H27 2015年	H28 2016年	H29 2017年	H30 2018年	R1 2019年	R2 2020年		
とうや	出荷量kg		340	980	924	1790	2016	230	1023	663	1873	2210	<b>3282</b>
	反収kg		425	653	525	471	458	59	176	221	506	613	<b>698</b>
	面積a		8	15	18	38	44	39	58	30	37	36	<b>47</b>
きたあかり	出荷量kg		1280	990	1913	2640	2086	2175	547	1368	1278	1490	<b>2255</b>
	反収kg		512	582	669	550	652	558	182	279	412	413	<b>537</b>
	面積a		25	17	29	48	32	39	30	49	31	36	<b>42</b>
さやあかね	出荷量kg		6360	2757	1648	1780	3330	2305	975	4110	2871	4800	<b>1874</b>
	反収kg		1010	501	832	774	640	623	222	874	2871	979	<b>399</b>
	面積a		63	55	20	23	52	37	44	47	48	49	<b>47</b>
ノーザンルビー	出荷量kg		0	110	534	987	745	485	456	1095	2098	1320	<b>1123</b>
	反収kg		0	220	40	581	414	269	228	365	806	628	<b>624</b>
	面積a		1	5	13	17	18	18	20	30	26	21	<b>18</b>
シャドークィーン	出荷量kg		0	0	188	378	375	315	30	271	828	440	<b>202</b>
	反収kg		0	0	137	210	188	175	25	194	360	275	<b>112</b>
	面積a		1	3	14	18	20	18	12	14	23	23	<b>18</b>
黒大豆	出荷量kg				0	74	150	91	0	90	355	270	---
	反収kg				0	124	115	57	0	41	169	117	---
	面積a				4	6	13	16	24	22	21	23	---
ビーツ	出荷量kg			試験栽培	試験栽培					生産量	80	516	<b>534</b>
	反収kg										400	1040	<b>1068</b>
	面積a										2	4	<b>5</b>

# 暦 と 気 象 ～

2022年 1月号

暦 と 気象 に関する俚諺の一つに次の様なものがあります。

目に見えない大切な事にころを向けて見ませんか？



2021年 12月 16日

2021年 12月 17日

この冬の有機JAS畑は例年と違います。新しい試みを行っています。それは何でしょうか？  
看板の左の緑は、秋播き小麦。右側の緑は、後作緑肥のエン麦の緑。中央の土色は、ひまわりとビーツの栽培跡と芋跡でエン麦種の足らなかった部分。一般の畑では後作エン麦は10月頃には畑にすき込まれますが、この畑では、春にすき込み土壌構造を改善する目的でエン麦を栽培しています。

## ☆ 雨量 と 地下水

雨量 ⇒ 旧正月元日から最初の未の日までの日数でその年の雨量を予知

元日 が 未 ⇒ 1合水 早魃

三日目が 未 ⇒ 3合水 早魃

十日目が 未 ⇒ 1升水 大水

地下水 ⇒ 正月元日 から最初の未の日の日数

2022年令和4年壬寅		
旧正月	2月	1日
最初の未	2月11日	10日目
最初の未	1月11日	5日目
雨量	10	
_____	=	_____ ⇒ 多い
地下水	5	

## ☆ 旧正月 と 立春

2022年	
旧正月	2月 1日
立春	2月 4日

立春より早い ⇒ 春が早い 秋が短い

⇒ 立春と同じ頃 ⇒ 平年並み

立春より遅い ⇒ 春遅い 秋が長い 夏短い

## ☆ 豊作

- ・小寒の日（1月5日） 少し雨が降る ⇒ 麦 豊作
- ・小寒の日（寒の入り） 雪降るは ⇒ 豊作 （1月5日降雪です）
- ・寒中に雷鳴 ⇒ 豊作
- ・寒中にしばしば雨降る ⇒ 春 豊作
- ・早魃 に 凶作なし （2021年7月早魃）
- ・旧暦閏年に 凶作なし （2017年は閏5月で5月が二回あり閏年）

## ☆ 凶作

- ・日蝕 ある年は ⇒ 凶作多い
- ・月食 ある年は ⇒ 蔓作凶作 （11/8日皆既月食）